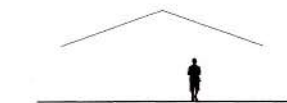


浮遊する屋根

みんなの家の「みんな」って誰だろうと思った。
「みんな」が組織や集団全体のことではなく、
集団の中にあるひとりひとりのことを指すのならば、
みんなの家は憩いの場というだけでは不十分なのではないか。
人間は様々な集団に同時に所属し、それぞれで違う顔を持つ。
そんな生活をしていると時々人と関わるのに疲れてしまう。
地域の近くで家族、仕事、学校、どの集団からも浮遊する
ひとりになれるそんな場所がほしいと、私は思った。



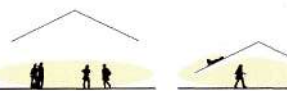
1. DIAGRAM



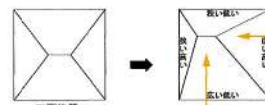
シエレのように空間を包むひとつの大きな屋根は
それだけで安心感を与えることができる



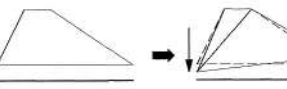
軒の高さを極端に下げることで屈んで入ることを促す
屈んで入ることで非日常感が隔られる



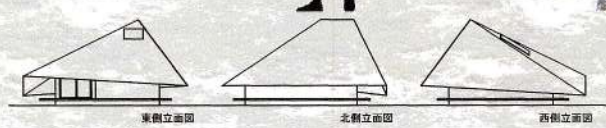
屋根が地面に近づくことで本来の活動域に鑑衡し、
屋根の周辺に新たな活動・行動が生じる



東・南側からの採光や空間に特徴を与えるため
棟の位置を調節する



外側に開くように軒の高さを上げる
外側に閉じるように軒の高さを下げる



東側立面図

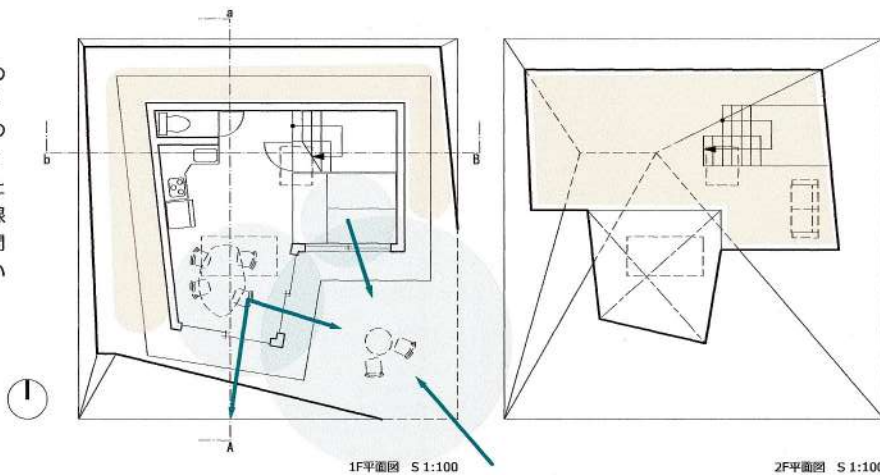
北側立面図

西側立面図

2. PLAN

憩いの空間と一人の空間の両立の
ためにL字型の平面とし、憩いの
空間は空間的に連続する。一人の
空間はL字型の外側の縁側と二階
空間に確保した。縁側では座った
時も低い軒によって外の人と視線
が交わることがない。憩いの空間
と独立しながら閉じきっていない
空間を目指した。

- 憩いの場所
- ひとりの場所

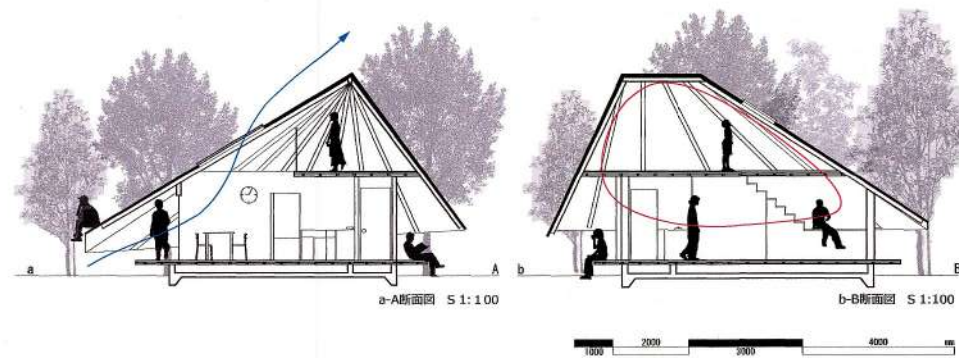


1F平面図 S 1:100

2F平面図 S 1:100

3. SECTION

吹き抜け上部に設けられたトップライトによって非常に低い軒の内側でも明るい空間を得られる。
軒が低いことによって、夏は重力換気で地面に近い涼しい空気を取り込み、冬は暖かい空気を逃がさない。



a-a断面図 S 1:100

b-b断面図 S 1:100

